

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告数63件(前月比 -, 前年比 63. 0)と8月の報告数は0でしたが、急に増加しています。今後の動向に注意が必要です。宇城(7. 7)、天草(1. 4)からの報告が目立ちます。

※()書きは1ヶ月の報告数を定点数で割った値。以下同じ。

小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

(全体傾向) 報告総数2, 719件(前月比 1. 1、前年比 0. 9)でした。報告総数は前月よりわずかな増加ですが、RSウイルス感染症が報告数423件、前月比(15. 11)と激増しています。感染性胃腸炎1, 005件が報告数としては多いですが、増加傾向は見られません。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告は423件(前月比15. 1、前年比1. 0)で、9月に入って急増しています。菊池(24. 0)、水俣(20. 0)、山鹿(14. 0)からの報告が多く、3歳以下の乳幼児が中心です。その中で1歳未満が133件と30パーセント以上を占めています。重症化に注意が必要です。一昨年と同様な増加傾向ですが、これから増加していく季節ですので動向に注意が必要です。
2. 咽頭結膜熱: 報告数43件(前月比 0. 8、前年比 0. 1)と、昨年12月をピークに減少傾向が続いています。8月よりさらに減少し、昨年、一昨年のような8月、9月の増加は見られませんでした。
3. A群溶連菌咽頭炎: 報告数181件(前月比 0. 8、前年比 1. 2)です。昨年は年間を通じて一昨年より報告数が多く、今年も昨年を上回る報告数ですが、8月から次第に減少してきています。しかし例年これから冬季に向けて増加傾向を示していますので、注意が必要と思われます。人吉(9. 0)、宇城(6. 3)、菊池(6. 0)からの報告が多いです。乳幼児、学童に多い報告です。
4. 感染性胃腸炎: 報告数1, 005件(前月比 1. 1、前年比 0. 9)と報告数は多いですが、例年並みの報告数です。6月から減少傾向ですが、例年10月から増加傾向に転じる傾向があります。今後の動向に注意が必要です。菊池(42. 2)、有明(42. 2)、山鹿(41. 5)からの報告が多いです。全年齢層に分布しています。10歳以上の年齢での報告も多いです。
5. 水痘: 報告数157件(前月比 1. 0、前年比 1. 6)と、例年と比べると少なく、8月から報告数は少ないまま推移しています。
6. 手足口病: 報告数286件(前月比 0. 7、前年比 1. 3)と、前月より減少し、昨年のような夏のピークは示さずに減少していくようです。しかし人吉では(22. 7)と流行しています。
7. 伝染性紅斑: 報告数1件(前月比 0. 2、前年比 0. 2)と、この1年間にはほぼ1桁の報告数です。増加傾向は見られません。1例は熊本からの報告です。
8. 突発性発疹症: 報告数184件(前月比 1. 0、前年比 1. 1)と、報告数・推移とも例年並みの動きです。全て3歳以下の報告です。
9. 百日咳: 報告数2件。(前月比 0. 5、前年比 -)。今年は毎月1桁の報告がありますが5月の8件をピークに減少してきています。菊池1件、人吉1件の報告です。10~14歳1件、15~19歳

1件の報告です。

- ヘルパンギーナ：報告数175件(前月比 0.7、前年比 1.6)と例年同様に減少傾向を示しています。天草(13.3)からの報告が多いです。
- 流行性耳下腺炎：報告数29件(前月比 1.3、前年比 4.1)と昨年来、50件以下の少ない報告数が続いています。

眼科定点

- 急性出血性結膜炎：報告はありません。
- 流行性角結膜炎：報告数39件(前月比 0.8、前年同月比 0.5)と減少しており、5月のピーク時から毎月減少が続いています。
年齢別では20～69歳の広い範囲に多く発症しています。
地域別では熊本37件、菊池1件、天草1件の報告です。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

- 性器クラミジア感染症：報告数48件(前月比 0.9、前年同月比 0.8)で、前月比、前年同月比共に減少しています。男女別は、男性21件、女性27件と女性にやや多く見られています。年齢別は、女性は20～29歳に14件と多く、男性では15～24歳に6件、25～34歳に8件と多く見られています。地区別は、熊本29件と圧倒的に多く、次いで八代12件、有明4件、御船2件、宇城1件でした。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数18件(前月比 0.7、前年同月比 1.1)で、前月比8件減少し、前年同月比1件増加しています。男女別は、男性5件、女性13件と女性に多く見られています。年齢別は、女性は25～70歳以上と幅広く、男性は30～54歳となっています。地区別は、熊本が11件と圧倒的に多く、次いで八代4件、菊池2件、有明1件でした。
- 尖圭コンジローマ：報告数は3件(前月比 1.0、前年同月比 0.6)で、前月比同数、前年同月比は減少しています。男女別は、男性1件、女性2件です。年齢別は、男性が20～24歳に、女性は20～39歳に見られています。地区別は、熊本3件のみでした。
- 淋菌感染症：報告数は23件(前月比 0.6、前年同月比 2.1)で、前月比は減少しましたが、前年同月比は倍増しています。男女別は、男性に19件と多く見られています。年齢別は、男性は30～34歳に6件が最も多く、女性は15～24歳の若い層に見られています。地区別は、熊本18件と圧倒的に多く、次いで八代3件、有明、宇城各1件でした。

基幹定点

(週報分)

- 細菌性髄膜炎：報告数0件(前月-2、前年同月-1)でした。
- 無菌性髄膜炎：報告数2件(前月比 1.0、前年同月比 0.2)でした。

3. マイコプラズマ肺炎:報告数8件(前月比 1. 6、前年同月比 1. 3)でした。やや増加です。
4. クラミジア肺炎: 報告数0件(前月-1、前年同月に同じ)でした。
5. 感染性胃腸炎: 報告数1件(前月比 1. 0、前年同月 データなし)でした。
(ロタウイルス)

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:
報告数23件(前月比 1. 0、前年同月比 0. 8)でした。先月より減少していますが、減少は頭打ちが続いています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:
報告数5件(前月比 5. 0、前年同月比 2. 5)で増加しました。
9歳以下は1件です。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:
報告数0件(前月 0件、前年同月 0件)でした。ここ1年で1件のみです。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:
報告数0件(前月 0件、前年同月 0件)でした。ここ1年で0件です。

届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核:34件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症:2件
腸チフス:1件
- 4類感染症: A型肝炎:1件
日本紅斑熱:1件
日本脳炎:1件
レジオネラ症:4件
- 5類感染症: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:1件
後天性免疫不全症候群:1件
侵襲性肺炎球菌感染症:3件
水痘(入院例):1件
梅毒:1件
播種性クリプトコックス症:1件